

# I . 2021年度の活動報告と今後の方針

委員長 妻 屋 彰

2020年の年初から始まったコロナ禍は、2021年度も終息することなく続き、交流や活動が制限されるなど生活への影響は引き続き大きなものがありました。製造業においてもグローバルサプライチェーンの脆弱性が露呈しただけにとどまらず、様々な制限の長期化が企業活動の阻害要因として重くのしかかっている状況が続いています。一方、このような対面での交流や活動の制限が続く状況を打開するべく、リモートワークやオンラインでのビジネスが大都市圏だけでなく地方にも急速に広がり、それと同時にデジタル技術を活用した効率的な仕事の在り方も模索され、導入され始めてきています。そういう意味ではコロナ禍に対応するのみならず、このピンチをきっかけにデジタルをキーテクノロジーとして製造業も大きく変化していく一年であったと思います。

本専門委員会も引き続きコロナ禍のため、また、2021年夏過ぎには収束するだろうという甘い見通しのため、専門委員会の活動は2020年度に引き続いて低調となりました。2年続けて活動が低調に終わってしまったこと、委員長としてお詫び申し上げます。そんな中ですが、オンラインで講演会を5軸工作機械の空間精度補正技術調査研究小委員会の企画で3回開催し、いずれも30名強の参加者を集めました。2022年1月に開催したシステム制御情報学会 CyFA 研究分科会との共催研究会では、「ロボット自動化技術の最前線」と題して3名の講師による講演会を開催し、約60名の方に出席いただきました。また、2021年度の新しい企画として、精密工学会も主催学会の一つとなっている第64回自動制御連合講演会において本専門委員会から「総合生産システムの理論と実践 ～設計・制御・管理」と題したオーガナイズドセッション企画し、7件の講演発表を集めました。

2022年度もコロナ禍が終息しない状況が続いておりますが、徐々に行動制限も解除に向かっていきます。状況を見ながらということにはなりますが、2021年度に実施に至らなかった企画を中心に対面での講演会や見学会などを企画・実施する予定です。また、2021年度に企画した自動制御連合のオーガナイズドセッションは、本専門委員会を対象とする幅広い領域の研究について一堂に会して聴講し議論できる場となることが期待できるため、2022年度も引き続き企画する予定です。

最後になりましたが2022年度につきましても、なお一層のご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。